

2013年2月1日

放射能のことを正しく理解してもらうために 本学教授執筆

絵本『ほうしゃのうが降ってきたの』刊行

広島国際大学（学長：秋山實利）の保健医療学部 診療放射線学科 熊谷 孝三教授執筆による絵本『ほうしゃのうが降ってきたの』が刊行されました。

絵本『ほうしゃのうが降ってきたの』は、小さい女の子がお母さんに問いかける形式にすることで、子供から大人まで放射能のことを正しく理解してもらえるようにと、2013年1月に刊行したものです。

子供も大人も放射能に向き合ってもらいたい

2011年3月に起こった東日本大震災において、原子力発電所の事故による放射線物質の流出は、広範囲にわたる周辺地域に甚大な被害を与え、今なお様々な懸念が続いています。ただ、放射能とはいったいどういったもので、人体にどのような影響を及ぼすかなど、実はあまり広く知られていません。

本書では、解説が難解になりがちな放射能のことについて、小さな女の子のシンプルな問いかけにお母さんが分かりやすい返答をしています。子供にも分かりやすいだけでなく、大人にも放射能の問題を考える糸口をつかんでもらえると考えています。

学校教材にも役立つ内容

今後は幼稚園や小学校、中学校などでも本書を教材として活用いただき、子供たちが放射線のことを身近に捉えて理解し、考えるきっかけになれば幸いです。

※取材ご希望の方は、以下の取材の申し込み先(東広島キャンパス(東広島市黒瀬学園台))までお申し出ください。

ほうしゃのうが降ってきたの



くまがひ、こうぞう 監

■内容に関するお問い合わせ先

広島国際大学保健医療学部 熊谷孝三教授

TEL：0823-70-4580

■取材の申し込み先・本件発信部署

広島国際大学 企画課（担当：坂井）

TEL：0823-70-4922